

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会だより

第10号

2004年12月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://homepage3.nifty.com/biotope/index.html>

発行責任者： 篠崎 将

Tel/Fax: 04-7173-6353

楽しくできました収穫祭

豊作の喜びを祝いたいという収穫祭は、今年は11月7日(日)、昨年と同じように木村さんの宅地の跡地で行われました。今年はお天気にも恵まれ、暖かい陽気に気持ちはずみずみ。名戸小からお借りしたテーブル、椅子などを並べ、レンタルのプロパンレンジでの豚汁作り、持ち寄りのコンロに炭をおこしてバーベキューの準備も始まります。



ビオトープで収穫した不耕起米を使った「ちらし寿司」も届き、餅つき器と、杵、臼、せいろ、ふかし器も届いて餅つきの準備も始まります。ビール、お酒などの飲み物も揃い、手作りの漬物、煮物なども届きます。餅つきが始まりました。つき手もかえし手も不慣れのようにですが、おいしそうな餅も次々につき上がり、大根おろしの辛味餅、黄な粉餅がテーブルに並びます。ご招待した方を含めて32名が参加し、楽しい収穫祭でした。

ビオトープのいつもの流儀で、会員ができるものを準備しての、まさに手作り、持ち寄りパーティでした。会費の千円は買い出した材料費でほぼとんとん、うまく収まりました。やはり実際に手塩をかけて米作りにはげんだ不耕起、水田稲作関係者の出席が多く、生きもの観察、ホタル部会の参加者が少なかったのは今後課題を残しました。みなさんの自主性にお任せのアバウトな実行委員会でしたが、成功裡に終わったことを感謝申し上げます。(収穫祭実行委員長 高田昭治)

初めて参加された方からのひとこと感想

広報編集部のインタビューから



つきたての餅は10年振り。本当に美味しかった。楽しい会、来年も楽しみます(山谷さん)

いいグループですね。料理もすばらしい。正直言ってこんなに素晴らしいとは思っていなかった(長谷部さん、ときわ会)

ごちそうさまでした(三浦さん、ときわ会)

素晴らしい天気に恵まれ、美味しい料理を堪能しました。(園田さん)

米が300キロ以上獲れたのには驚きました。いい1時だけ参加させてもらって・・・(峰村惣三さん)

料理・おにぎり・・・美味しかった。団結はいいね。人を知る。レパートリーが広がりますね。(田中清一さん、招待者)



収穫祭に参加させて頂き有難うございました。お陰様で秋晴れの日を健康的に過ごさせて頂くことが出来ました。いろいろの分野で活躍してこられた方々が、自然を愛し、豊かな環境を守り残していこうという一点で集まり、地道に活動してこられたということに感銘を受けました。今後、この活動が地域に根づき、大きく広がっていくことを念願すると共に、いささかなりとも何かのお役に立つことが出来れば幸いです(村川五郎さん)

つきたての餅は最高！ - 名戸ヶ谷小ふれあいの集い

11月20日(土)午前7:30分から、ピオトープ会員指導の下に、名戸ヶ谷小学校校庭で5~6年生による餅つきが行われました。晴天にも恵まれ、7:30分に火起こし。餅つきにはピオトープ会員13名、柏市環境保全課から4名、他に名戸ヶ谷小学校担当学年の先生方や学年父母など大勢が参加しました。餅つきは8:45分開始の前半で6臼、9:55分開始の後半部でも6臼。



最初の大事な部分をピオトープ会員がついた後、会員の激励を受けながら、児童たちが足をよろつかせたり臼に杵をぶついたりしながら、順番に餅つきを体験しました。それから各グループで黄な粉、あんこ、海苔など、つきたての餅の味を堪能しました。また、この日はお手伝いのスタッフ用に赤飯や不耕起米のおむすびも用意され、大人気でした。名戸小OBたちが小学生に紛れて「最高の味だ！」と言いながら餅を頬ばっている姿もあちこちで見られました。(広報編集部)

ひとくち感想 広報編集部のインタビューから



おもちつきは初めて。とてもよい経験で楽しかった(5年 西沢真名)
黄な粉もち美味しかった。火起こしはちょっと煙かった(5年 遠藤祐里)
去年より忙しかったけど慣れていたので楽しかった(6年 島津ひろき)
すごく美味しい。最高です(OB 米岡晋之介・原山晶行)
もうすばらしい！マキもいい。杵、臼に触れる機会や地域の年配の方に教わる機会はとても大事。こんな貴重な体験、今後一生あるかないかです。本当にありがとうございました(5年 PTA 成島和江)

オムスビの新米は美味しかった(5年 PTA 大久保・岩瀬・坂井野・山口)

餅は美味しかった。でも醤油味はしょっぱかった。手がべとべとになった(6年 栗田真寿実)

不耕起・水田稲作部会

今年の日本の稲作は暑い夏で豊作を予想されましたが、台風の日本上陸が多くやや不作となりました。不耕起部会の稲作は台風などの影響で刈り取り前に倒れ、すずめ対策も不十分で品質、収量には不満足でした。しかし玄米で497kgの収量は2年目としては上出来と言えます。不耕起部会はもちろん、多くの方のご協力と一年目の経験の賜物と感謝しています。



不耕起稲作部会脱穀作業



水田稲作部会脱穀作業

水田稲作部会の脱穀作業は雨天続きの晴れ間を縫って10月7日(木)午前に名戸ヶ谷小学校校庭で行われ、5,6年生が参加しました。ピオトープ会員指導の下、全員が脱穀、トミ、篩などの作業を僅かでしたが体験しました。午後はピオトープ会員で、10月2日の残りの不耕起部会の脱穀作業を完了しました。

来年に向けての反省と作業(不耕起)

- ・ 藁と糠の散布：藁は11月6日までに済みました。糠は4月頃までに行います。
- ・ 収穫祭：11月7日(日)は試食と反省も含め、楽しい一日でした。
- ・ お正月の飾り作り：藁を利用して昨年同様に12月中旬に予定。
- ・ 畦の補強：板を敷き、一輪車で運搬可能にします。
- ・ 水田周囲に溝：水田の水落とし時のパイパス・生き物の棲む場所とします。(才川寿磨)

生きもの部会

秋の生きもの観察会（生態系調査）

祝日の11月3日、講師の先生を招いて、秋の生きもの観察会を行いました。参加者は、名戸ヶ谷小学校の生徒を中心に37名。

植物が担当の岩瀬先生からは、実をつけた植物を手にかざしながら、植物が子孫を残すためにどんな工夫をしているのかを分かりやすく説明がありました。また、ビオトープの中で様々な植物が増えたり減ったりしている様子とそのメカニズムについて解説していただきました。





昆虫など動物担当の浅間先生と柄澤先生の指導で、子供たちは用意された網などで生きものを探しました。11月にもかかわらずビオトープには多くの生きものを見ることができ、子供たちの手でニホンアカカガエルやクワガタなどの貴重種をはじめ沢山の生き物が集められました。両先生からは、それぞれの生き物の面白い生態や雌雄の区別などの楽しい説明があり、子供たちは目を凝らして生き物に見入っていました。晴天にも恵まれ楽しい一日となり、子供たちと来年の春の再会を期して、観察会をおえました。

（佐々木 光正 ）



観察された生きものリスト （資料：篠崎 将）

昆虫	オオアオイトトンボ（写真 右） クビキリギリス コクワガタ シオカラトンボのやご オオカマキリ チョウセンカマキリ コカマキリ コバネイナゴ ツマグロヒョウモン モンシロチョウ スジグロシロチョウ オンブバッタ フタモンアシナガバチ	
貝類	カワニナ サカマキガイ オナジマイマイ	
魚類	カダヤシ ドジョウ	
両生類	ニホンアカカガエル アマガエル	
鳥類	ヒヨドリ カワラヒワ ダイサギ	
爬虫類	カナヘビ（写真 右）	

ホタル部会



「どの程度にする？」「少なくとも川幅は90センチ以上ほしいな」

「そうすれば、草が生い茂って水流をとどませることもないなあ」 - などと相談しつつ、ホタル部会の会員で川幅を広げました。田んぼがあったところなので、なかなか仕事の能率が上がらない。が、ようやく3時間で川幅を1メートル前後に広げました。そしてカワニナを放流。今年はエサが確保できるような川筋にしたいと考えています。

尚、蛇足ながら、ホタル部会の作業は蛍が飛ばなくなった9月～3月ぐらいまでです。その後はホタルの幼虫が土の中で繭になり、飛翔するための準備をしています。そのため、川の土手に上がるのを極力さけるようにしています。今はその作業ができるので、作業開始といったところです。

（松本徳重）

名戸ヶ谷ピオトープを見学

10月16日(土)「もっと知ろう柏のまち」というテーマの講座で約50名の市民がピオトープを見学されました。ピオトープに到着する前にバスの中で、ピオトープの概要と現状を説明しておきましたが、これほど住宅に囲まれ市街化したところで、鳥や昆虫、カエルなど絶滅危惧種の多さに驚いていました。

また、不耕起栽培についても説明しましたが、化学肥料や農薬を全く使わなくても水稲栽培をできることが信じられないという人も多くいました。まだまだ知らない人も多く、PRの必要性を感じました。なお今回はこんぶくろ池公園や酒井根下田の森緑地も見学したため、十分に説明する時間がありませんでした。ピオトープと公園の違いは理解していただけようです。(篠崎 将)



公開講座 「残そう！ 柏の自然と文化」 シンポジウム

11月6日(土)柏中央公民館で公開講座「残そう！ 柏の自然と文化」というテーマのシンポジウムが行われました。これは柏ポラコンネットの自主企画講座で「もっと知ろう柏のまち」の5回目にあたる最終回の講座でした。シンポジストは次の6つの団体の代表者でした。

柏ホテルの会 さかいね下田の森自然公園友の会 こんぶくろ池を考える会
手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会 かたくり12会 名戸ヶ谷ピオトープを育てる会

「名戸ヶ谷ピオトープを育てる会」からは私が、また三坂さんが柏ホテルの会の代表としてそれぞれ参加しました。



一般参加者は約60名でした。日頃の活動紹介と熱心な質疑などが交わされ内容豊富なシンポジウムでした。各団体の発足までの経過、目的、活動内容は様々ですが、どれもが柏市内外の貴重な自然環境や文化財から学び、それを残したいという思いで活動しています。他団体の話を聞くうちに私もその全ての団体に参加したいという衝動に駆られました。

後日、シンポジウム参加者の一人から次のようなメールが届きましたので紹介します。

「… それぞれ数十名の組織、団体をまとめておられる方々だけあって、わかりやすい資料を使ってのお話はなかなか魅力的でした。(略) 3時間はあっという間でした。柏市内のこのようなグループのみなさんが一堂に会して活動紹介、報告、交流ができ、お互いがゆるやかにつながることができれば…と感じた次第です。ありがとうございました … かしわ「地球村」代表、内藤成信」(春山房子)

定期総会のお知らせ

日時： 2005年1月23日(日)午前10時より 場所： 柏市中央公民館 5階講堂

編集後記：記録的な猛暑の夏の後に来た台風と雨続きの秋。その間隙の僅かな晴れ間を縫うように、めじろ押しに行事が行われました。脱穀、収穫祭、生態系調査、名戸ヶ谷小ふれあいの集い・・・「花便り」と「名戸ヶ谷の昔」は来年の春までしばらくお休み。代わって、次号から「ピオトープの生きもの」の連載を始めます。ピオトープも展示で参加する「手賀沼ふれあいウオーク」は次号に。広報編集部(春山)